

南海トラフ地震 ハザードマップ

このマップは南海トラフ地震が発生した場合の
「震度」と「液状化の危険度」の分布を示しています。

※予想される、震度及び液状化が必ず起こるとは限りません。
また、予想区域以外においても災害が発生する場合があります。

震 度

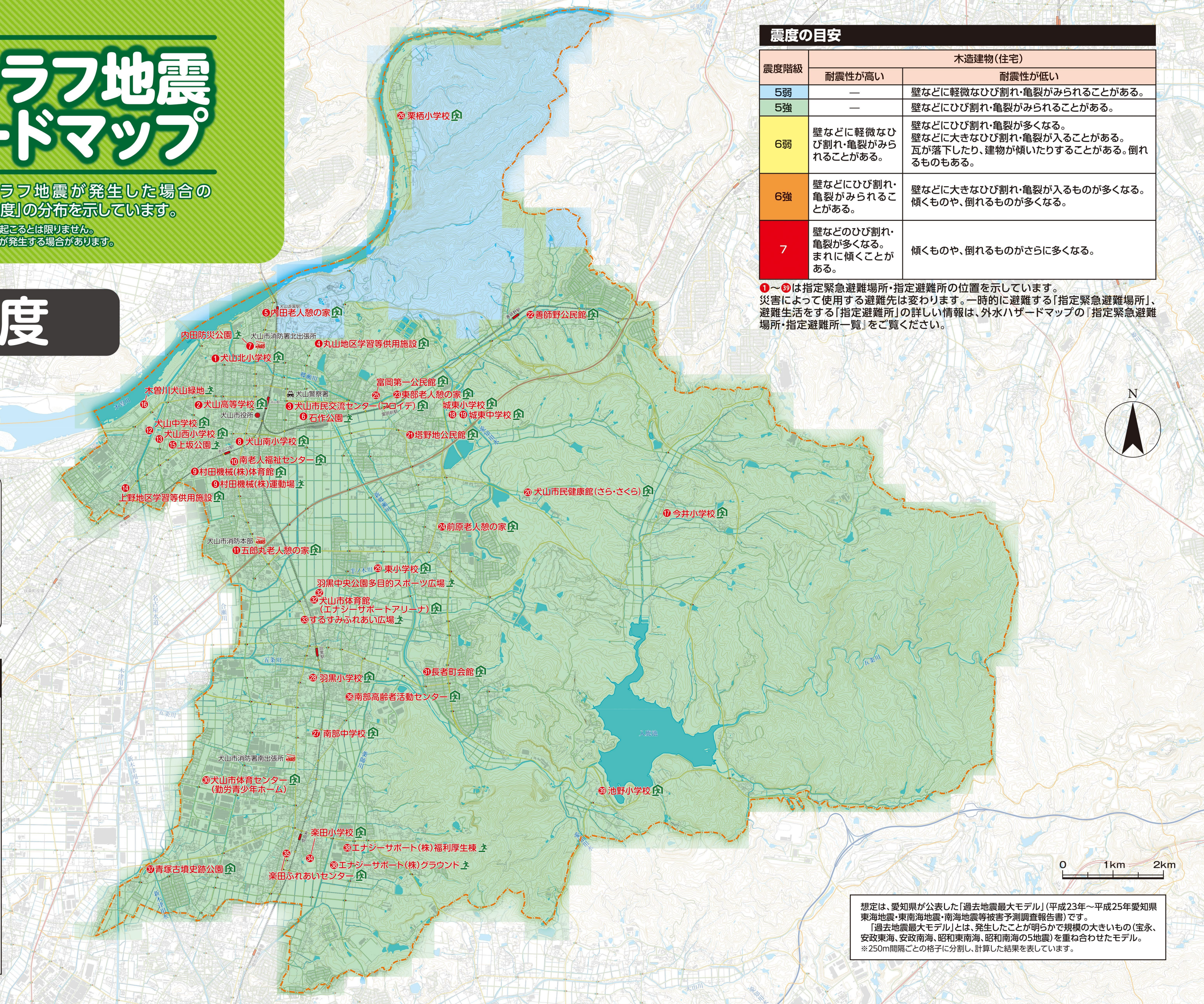
凡 例

▼避難施設
指定緊急避難場所 兼 指定避難所
指定緊急避難場所
※①～⑥は避難施設を示しています。

▼記号
大山市 市役所 国道
行政界 消防署 県道
鉄道 警察署 踏切
鉄道駅

震 度

7
6強
6弱
5強
5弱



①～⑥は指定緊急避難場所・指定避難所の位置を示しています。
災害によって使用する避難先は変わります。一時的に避難する「指定緊急避難場所」、
避難生活をする「指定避難所」の詳しい情報は、外水ハザードマップの「指定緊急避難
場所・指定避難所一覧」をご覧ください。

液 状 化

凡 例

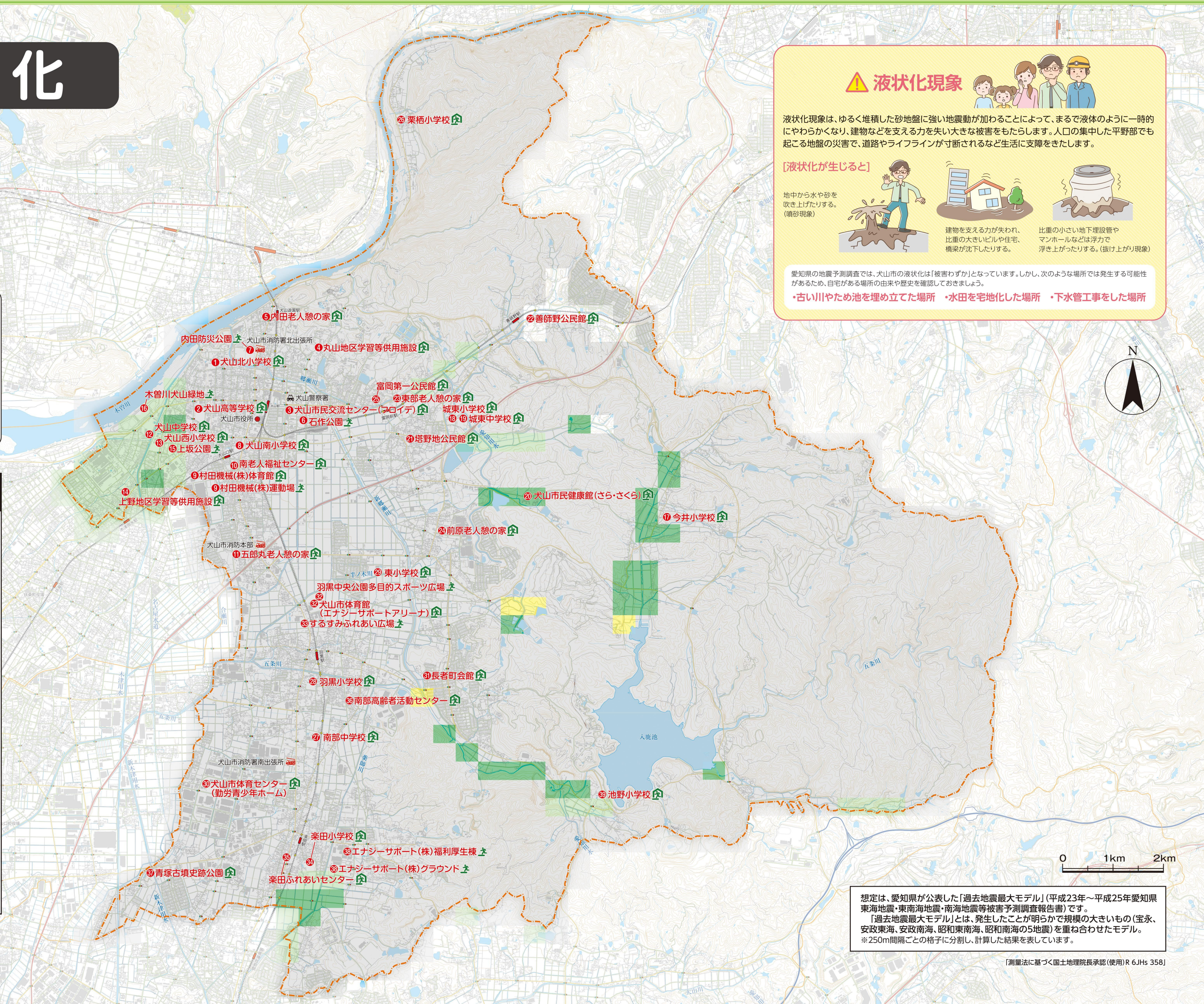
▼避難施設
指定緊急避難場所 兼 指定避難所
指定緊急避難場所
※①～⑥は避難施設を示しています。

▼記号
大山市 市役所 国道
行政界 消防署 県道
鉄道 警察署 踏切
鉄道駅

液状化危険度

極めて高い
高い
低い
極めて低い
計算対象層なし
計算対象外

【計算対象層なし】
地形区分は計算対象に含まれるが、
地盤に計算対象となる層が含まれて
いないもの
【計算対象外】
地形区分が液状化計算の対象となら
ないもの（例えば山地や丘陵地など）



液状化現象

液状化現象は、ゆるく堆積した砂地盤に強い地震動が加わることによって、まるで液体のように一時的
にやわらかくなり、建物などを支える力を失い大きな被害をもたらします。人口の集中した平野部でも
起こる地盤の災害で、道路やライフラインが寸断されるなど生活に支障をきたします。

【液状化が生じると】



愛知県の地震予測調査では、大山市の液状化は「被害わずか」となっています。しかし、次のような場所では発生する可能性
があるため、自宅がある場所の由来や歴史を確認しておきましょう。

・古い川やため池を埋め立てた場所 ・水田を宅地化した場所 ・下水管工事をした場所

想定は、愛知県が公表した「過去地震最大モデル」(平成23年～平成25年愛知県
東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書)です。
「過去地震最大モデル」とは、発生したことが明らかで規模の大きいもの(宝永、
安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震)を重ね合わせたモデル。
※250m間隔ごとの格子に分割し、計算した結果を表しています。